

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	卒業制作	
開設学科	声優・演劇科		コース名	声優コース／俳優・タレントコース		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	120時間
単位数	4単位		授業形態	実習			
教科書/教材	卒業制作課題戯曲（台本）を配布する						
担当教員情報							
担当教員	千葉繁・竹本敏彰・室生春			実務経験の有無・職種	有・声優　俳優　演出家		
学習目的							
この科目を受講する学生は、声優は俳優（役者）である事を強く認識できるようになる事を目指す。声優コース、俳優・タレントコース共に演劇、ミュージカル公演をもって卒業制作とする。特に声優は言葉だけで全てを表現しなければならない難易度の高い仕事であるため、基本的に俳優のように体を使って表現する事ができなければ成り立たない仕事である。1年次に学んだ基礎演技、舞台総合実習、2年次に学んだ舞台実習、声優演技、それらの集大成として卒業制作を創り上げ、観客の前で実際に演じ卒業公演を行う。配役に命を吹きこみ、物語を立体的に表現し、舞台上で役として生き抜く、そうして作品を創り上げる過程を学び、今後の進路や仕事に活かしてゆくことを最終目的とする。							
舞台実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの集大成と言える授業である。この科目を受講する学生は、自分の人生ではなく他人の人生を生きる難しさと楽しさが理解できるようになる。自分が表現したい演技の矛盾点にも自発的に気が付けるようになる。照明や音響を使い、決められた動きの中で生きた芝居が行えるようになる。発表までの過程を学ぶ事で、役作りとは何か、芝居　とは何か各々答えを見いだせるようになり、それらを活かして声優の演技に役立てられるようになる。私の授業の到達目標は、声優は俳優であるという事をしっかりと認識してもらう事だ。心の通った生きた芝居を学び、今後の役者人生に役立ててほしい。							
教育方法等							
授業概要	卒業公演は基本的にダブルキャストで行うため、A班、B班にチームを分けて行う。2年間の集大成である卒業公演に向けて、基本的には今まで学んだ事を活かし自ら気が付いていく授業にしていきたい。演出と学生達が考えた表現を融合し、作品の面白さを追求していく。授業は「荒立ち稽古」「通し稽古」「最終的なリハーサル」「本番」で構成している。最後の「合評会」では、客観的に自分達の演技を見返し上手くできた所と足りなかった所に気が付き、卒業後の目標を見いだせるようにする。						
	授業態度（特に居眠りや私語）に関してはかなり厳しく対応する。ひとりひとりの学生に割り当てられた役が大事な物語構成員であることを理解し授業参加意識の欠落を招かないこと。また、「通し稽古」に入ってから連絡のない遅刻・欠席に関しては配役の変更、降板も辞さない。そして、割り振られた役割分担を責任を持って成し遂げること。尚、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することはできない。						
評価方法	種別	割合	備　考				
	試験・成果発表	30%	練習から発表までの伸び率によって総合的に評価する				
	平常点	70%	真剣に授業に向き合っているか、積極的な授業参加度、日々の鍛練等、総合的に評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	卒業制作用戯曲を創り上げる（1）			A班、B班とも序盤までの理解を深め、各々の役割を考える			
2回	卒業制作用戯曲を創り上げる（2）			A班、B班とも中盤までの理解を深め、各々の役割を考える			
3回	卒業制作用戯曲を創り上げる（3）			A班、B班とも終盤までの理解を深め、各々の役割を考える			
4回	荒立ち部分稽古（1）			A班、B班とも序盤前半を実際に肉体を使って演じ、物語・キャラクターを立体的にする。			
5回	荒立ち部分稽古（2）			A班、B班とも序盤後半を実際に肉体を使って演じ、物語・キャラクターを立体的にする。			
6回	荒立ち部分稽古（3）			A班、B班とも中盤前半を実際に肉体を使って演じ、物語・キャラクターを立体的にする。			
7回	荒立ち部分稽古（4）			A班、B班とも中盤後半を実際に肉体を使って演じ、物語・キャラクターを立体的にする。			
8回	荒立ち部分稽古（5）			A班、B班とも終盤前半を実際に肉体を使って演じ、物語・キャラクターを立体的にする。			
9回	荒立ち部分稽古（6）			A班、B班とも終盤後半を実際に肉体を使って演じ、物語・キャラクターを立体的にする。			
10回	荒通し稽古（部分返し）（1）			A班、B班とも序盤までを通し、作品の流れを体に染み込ませる。			
11回	荒通し稽古（部分返し）（2）			A班、B班とも中盤までを通し、作品の流れを体に染み込ませる。			
12回	荒通し稽古（部分返し）（3）			A班、B班とも終盤までを通し、自分の表現したい事とのズレに気が付き修正する。			
13回	通し稽古（1）			A班、B班ともに通し稽古を通して作品の完成度を上げる			
14回	通し稽古（2）			A班、B班ともに通し稽古を通して作品の完成度を上げる			
15回	最終的なリハーサル			本番と同じように音響、照明を含めたリハーサルを行い、最終確認を行う。			

授業計画（16回～18回）

[illegible]